

2024（令和6）年度

自己点検・評価報告書

日本赤十字秋田看護大学

2025（令和7）年7月

令和 6 年度自己点検・評価結果について（大学）

令和 6 年 5 月 23 日

内部質保証委員会

1 本学における自己点検・評価

令和 6 年度事業計画及び中期計画における自己点検評価について、教育理念及び教育目的に基づき、教育・研究の充実と学習成果の向上を実現するため、内部質保証委員会で妥当性の検証を行った。

2 自己点検・評価結果の概要

（1）中期計画に掲げる施策の自己点検・評価結果

① 概況

97 の施策のうち、概ね順調以上（S、A、B）と評価されたものは、85 の施策（88%）であり、各部門とも高い割合である。

一方で、「学生の受け入れ」「大学運営・財務」の一部に、抜本的な改善を要する（D）の施策があるほか、取組の強化が必要（C）である部門も存在している。

② 総評

高評価のものが約9割を占めており、中期計画の1年目であることを考慮すると、全体としては中期計画に掲げる各施策の実現に向けて順当に取組が開始されていると評価できる。

一方で、D評価の施策があった「学生の受け入れ」「大学運営・財務」の両部門については、抜本的な改善や取組の強化が必要であり、今後は、C評価の施策がある「教育課程・学習成果」「教員・教員組織」「学生支援」「教育研究等環境」部門も含め、更なる評価の向上に向けた取組を進めることが重要である。

（2）令和 6 年度事業計画に掲げる事業の自己点検・評価結果

① 概況

142 の事業のうち、概ね目標を達成以上（S、A、B）と評価されたものは、119件（84%）となっている。

しかし、「教育課程・学習成果」「学生の受け入れ」「大学運営・財務」部門で全く目標を達成できなかった（D）や、部分的な目標達成（C）と評価された事業があったほか、この3部門以外の「学生支援」「教育研究等環境」「社会連携・社会貢献」部門においても、C評価の事業があった。

② 総評

高評価のものが8割を超えており、2024年度の事業計画は、概ね順調に達成されたと判断できる。

一方で、評価の低かった事業については、事業を進める上で課題を分析し、今年度の改善に向けた取組を進めるとともに、高評価には区分されるが、B評価（概ね目標を達成）と判定された事業については、目標の完全な達成に向けて更なる改善や取組の強化を図る必要がある。

3 2024年度事業計画の部門別の総評

(1) 理念・目的

全ての事項でAであり、良好な状況にある。

(2) 内部質保証

S又はAが多数であり、良好な状況にあるが、新しい自己点検・評価点検制度には改善の余地があり、本学のP D C Aサイクルが有効に機能するよう、継続的な見直しが必要である。特に、新たに位置付けを変更した教学マネジメントでは、教育のさらなる質の向上に向けた取組の強化が重要となる。

(3) 教育研究組織

全ての事項でAであり、良好な状況にあるが、組織のあり方については、大学全体が有効に機能するよう常に見直しをしていくことが重要である。

(4) 教育課程・学習成果

S及びAが過半数を占める一方、C、D判定となったものもあった。カリキュラムの特性上、单年度の達成状況での評価は難しく、一定のP D C Aサイクルの下での評価が必須であるが、今後も現状分析を継続し、明らかになった課題を翌年度のカリキュラム改善につながる取組を継続していくことが重要となる。

(5) 学生の受け入れ

概ね目標を達成以上(S、A、B)の評価が大半を占めるが、広報戦略の策定事業がD判定となっている。広報は、学生の確保や本学への理解促進につながる重要な取組であることから、学園本部の広報戦略を踏まえた本学独自の広報戦略の策定に向け、学園本部の広報戦略部会の検討内容を早急に整理する必要がある。

(6) 教員・教員組織

S又はAの判定が多数を占めおり、良好な状況にある。

(7) 学生支援

概ね目標を達成以上(S、A、B)の評価が3/4を占めているが、奨学金に係る情報提供や学生生活・学習環境等に対する学生ニーズの把握、学生相談対応に関する事業等で部分的な目標達成(C)となった事業が6件あった。学生支援は、学生個々の事情に配慮したきめ細かな対応が求められる時代である。部分的な目標達成(C)であった事業については、明らかになった課題を分析し、今年度の改善に向けた一層の取組の強化が求められる。

(8) 教育研究等環境

S及びAが過半数である一方、部分的な目標達成(C)であった教員の研究助成促進やオープンソースについては、達成に向け引き続きの取組が望まれる。

この分野の事業については、I C T環境に関するものが多く、財源問題を含め直ちに解決することが困難なものもあるが、優先順位を付けながら、計画的な取組をしていくことが重要である。

(9) 社会連携・社会貢献

高評価のものが多く、設定した事業に着実に取り組んでいることが認められる。今後は、更なる取組の強化を見据えて数値目標を再検討し、地域や社会への貢献を通して大学の存在価値を高めることが求められる。

(10) 大学運営・財務

S又はA評価が大部分を占め、概ね良好ではあるが、寄付金収入の増額や受託事業の拡充など、安定した財源の確保に関する事業については、取組が遅れている。今後、これ以上の学納金の増加を見込むことは困難であることから、財源の

多様化を図る取組を一層推進する必要がある。

4 本学における今後の質保証

高等教育機関の課題は、学生確保及び人材育成であり、大学運営においては、教育、研究及び社会貢献活動にバランスよく取り組む必要がある。

2025年2月、文部科学省中央教育審議会による『我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築～』の答申では、今後の高等教育政策の方向性と具体的方策として、教育研究の「質」の更なる高度化が示された。今後、本学においても、地域から必要とされる赤十字の看護職・介護職養成のための高等教育機関として、自らの責任において点検・評価、改革のP D C Aサイクルを有機的に展開し教育の質を高めるとともに出口における質保証が重要となる。そのためには、自己点検・評価の結果から明らかになった課題やその結果に基づく改善が可視化できるシステムの構築が急務である。

また、2025年3月には、『看護学教育モデル・コア・カリキュラム』が公表されたことから、現行カリキュラムの評価を基に、教育の質を評価する新たな評価制度への移行に対応したカリキュラム改定の検討が課題となる。

大学経営については、余裕のある状況ではないことから、経費節減は当然のこととして、多様な財源の確保について、取組の強化が求められる。

今後は、新たな自己点検・評価点検制度において、評価の視点に認証評価の視点を的確に反映させる等、組織的な質保証の枠組みとしての自己点検・評価点検制度の再検討が求められる。

第4次中期計画及び2024年度事業計画の最終自己点検・評価の結果の一覧表

(日本赤十字秋田看護大学)

| 中期計画の施策 | | | | | 2024年度事業計画 | | | | |
|----------------|-------|---|-----------------|------|------------|--|--|----|--|
| 学園 大目 標番 | 学園大目標 | 施策 | 施策一 連コー ド | 判定 | 事業コ ード | 事業内容 | 事業の実績 | 判定 | |
| ① | 理念・目的 | 大学の建学の精神と教育理念に基づき制定された入学者受け入れの方針（A P）、教育課程編成・実施の方針（C P）及び卒業認定・学位授与の方針（D P）が連関し運用されているかを検証し、不断の見直しを行っていく。 | 1 | 順調 | 0 | 大学の建学の精神と教育理念に基づき制定された入学者受け入れの方針（A P）、教育課程編成・実施の方針（C P）及び卒業認定・学位授与の方針（D P）が連関し運用されているかを検証し、不断の見直しを行っていく。 | 新たな自己点検・評価制度の試行運用を開始したほか、教学マネジメントの位置付けや大学ガバナンスコードを見直した。 | A | |
| | | 大学の理念や教育目的について、ホームページ上で公表するとともに、全教職員に対しては全教職員会議や学生ガイダンス等の機会を通じて周知する。 | 960 | 順調 | 1 | 全教職員会議において本学の経営状況の報告を行い、教職員の経営意識の醸成、共有化を図る。 | 全教職員会議を年2回（4/1と1/9）開催し、事務局長より本学の経営状況や事業計画等について、教職員へ説明し、経営意識の醸成と共有化を図ることが出来ている。 | A | |
| | | 秋田キャンパスの運営の基本目標と方向を定め、その実現のための中期計画を定め、全学的な取り組みを推進していく。 | 10 | 順調 | 2 | 秋田キャンパスのグランドデザインを公表するとともに、地域の関係機関・団体に周知する。 | 本学HPでグランドデザイン、中期計画及び2024事業計画を公表した。また、東北ブロックの赤十字支部・施設関係連絡会議で概要を説明した。 | A | |
| ② | 内部質保証 | 内部質保証については、「日本赤十字秋田看護大学・日本赤十字秋田短期大学内部質保証委員会規程」に基づき、全学レベル、学部・プログラムレベル、科目レベル等システムを整備し、内部質保証体制として取りまとめた教職員間で共有し、自己点検・評価を実施している。今後、機別別認証評価を念頭に、中期計画の体系に基づく自己点検・評価方法への見直しを進める。 | 1110 | 順調 | 1 | 新たな自己点検方式を導入し、点検を行う。 | 令和6年9月末を基準とする中間評価を行い、その結果を踏まえて学長からの指示を行った。令和7年3月末を基準とする最終評価の1次判定者の評価結果を取りまとめた。 | A | |
| | | 教育、研究、社会貢献及び大学運営に係る内部質保証システムについて、関連規程等に基づきP D C Aサイクルの運用を統括し、毎年度その点検・評価の結果を公表する。 | 20 | 概ね順調 | 1 | 自己点検・評価シートを作成する。 | 令和6年度の自己点検・評価の取り組みとして、中間評価（9月）と最終評価（2月）の2段階で進捗を確認し、内部質保証委員会での審議（10月・3月）を経て、経営会議で報告（11月・4月）を行った。8月には、各担当委員会・部署の担当者に対し、自己点検・評価様式の説明と計画の共有を実施した。年度末の目標達成の見込みは高く、提出率100%を維持している。 | B | |
| | | 経営会議は、内部質保証委員会から各レベルのP D C Aサイクルの実施状況の報告を受けるとともに、各委員会等に対して、必要な改善指示等を行う。 | 30 | 順調 | 1 | 経営会議は、全学のP D C Aサイクルの実施状況を検証し、改善に向け、各委員会等に指示等を行う。 | 9月末を基準日に中間評価を行い、内部質保証委員会からの報告を受けて、学長より数値目標達成や次年度事業計画の立案について指示をした。また、最終評価については、年度末に取りまとめ、次年度に評価を確定し、学長が指示することとしている。 | A | |
| | | 内部質保証システム、全学的な体制、A P、C P及びD P、関連規程について、その適切性・妥当性を点検・評価し、改善・向上に向けて取り組む。 | 25 | 順調 | 0 | 内部質保証システム、全学的な体制、A P、C P及びD P、関連規程について、その適切性・妥当性を点検・評価し、改善・向上に向けて取り組む。 | 学内のPDCAサイクルが機能するよう内部質保証システムの全体見直しを行ったほか、教学マネジメントの位置づけの見直しや中期計画の進捗管理の重複事項の解消を行った。 | A | |
| | | 体系的・段階的・継続的なF D・S D研修会の企画・開催及び他機関が開催する研修会の情報提供や参加を奨励することにより、大学運営に必要な知見の獲得等、教職員の資質の向上を図る。 | 1060 | 概ね順調 | 1 | 組織的かつ多面的なF D及びS D活動の実施に向けて、教育の質保証に関する全学的なニーズを把握し、委員会組織を越えた自由度の高い研修会の共同での開催を推進する。 | 「教育の質に係る客観的指標」における今年度のF DとS Dに係る設問の両方において、配点の満点を獲得した。 | A | |

中期計画ば施策の進捗状況の判定

【想定を上回る】 【順調】 【概ね順調】 【取組みの強化】 【抜本的な改善】 【達成不能】

事業計画の目標の達成状況の判定

S : 目標を上回る A : 目標を達成 B : 概ね目標を達成 C : 部分的な目標達成 D : 全く目標を達成できず E : 達成不能

第4次中期計画及び2024年度事業計画の最終自己点検・評価の結果の一覧表

(日本赤十字秋田看護大学)

| 中期計画の施策 | | | | | 2024年度事業計画 | | | | |
|----------------|--------|--|-----------------|--------|------------|---|---|----|--|
| 学園 大目 標番 | 学園大目標 | 施策 | 施策一 連コー ド | 判定 | 事業コ ード | 事業内容 | 事業の実績 | 判定 | |
| ② | 内部質保証 | 体系的・段階的・継続的なFD・SD研修会の企画・開催及び他機関が開催する研修会の情報提供や参加を奨励することにより、大学運営に必要な知見の獲得等、教職員の資質の向上を図る。 | 1060 | 概ね順調 | 2 | 全教職員それぞれが抱える問題点を踏まえ、年度ごとに体系的なFD・SDを実施する。 | 今年度実施予定の研修において、10回について他の委員会との共催での実施となる。大学院、学部、短大、事務局、図書館においても、各委員会、各課等の部署単位で、それぞれFD・SDの取り組みは行われている。 | A | |
| | | 学内外のIRに関するデータの収集・管理・分析を行う。また、分析結果を活用できるよう働きかけを行い、意思決定や計画策定等、PDCAサイクルが機能できるように支援する。 | | | 4 | SD研修会において、財務や運営、大学改革及び学生確保に向けた方策等、大学の経営的な視点から研修を実施し、持続可能性の観点から本学の教職員が目指すべき方向性を共有する。 | 全構成員を対象としたFD・SD研修会を1月10日に対面開催した。教職員基本研修の一環としてのSD研修会は2019（令和元）年度以来の開催となった。大学コンソーシアムあきた等の学外機関へも案内し、学外からも3名が参加した。 | A | |
| | | I R推進室は、定期的なIRデータの収集、管理及び分析の依頼に対応する。 | 150 | 想定を上回る | 1 | I R推進室は、定期的なIRデータの収集、管理及び分析の依頼に対応する。 | 年度内の分析依頼への対応率100%達成した。在学生へのPROG調査及び卒業生調査を実施し、すべて完成している(2月末現在、調査実施中のもの含む)。 | S | |
| ③ | 教育研究組織 | 本学の理念・目的に照らして、定期的な組織体制の見直しを実施する。 | 927 | 順調 | 0 | 本学の理念・目的に照らして、定期的な組織体制の見直しを実施する。 | 令和7年度組織編制に向けて委員会等からの意見要望を聴取し、経営会議の審議を経て、学長政策室の廃止、企画課の新設など組織改正を行った。 | A | |
| | | 地域共生センター（仮称）の設置に向けて取り組む。 | 870 | 順調 | 1 | 地域共生センター（仮称）の設置に向けて取り組む。 | 事務局の総務課の業務を再編し、企画課を新設することとした。 | A | |
| | | 社会の要請に応える教育を開拓していくために、教育に関する情報の恒常的な把握に努め、学生が教育を受ける機会を保証する。 | 160 | 順調 | 1 | 教学マネジメント会議の運営において、IR情報を活用した教育研究活動の検証をする。 | 本年度、令和6年8月21日、令和7年1月21日の2回、教学マネジメント会議を実施した。 | A | |
| | | | | | 2 | 教学マネジメント会議の運営において、アセスメントプランを踏まえたDP、CP及びAPの適切性に係る検証をする。 | 本年度、令和6年8月21日、令和7年1月21日の2回、教学マネジメント会議を実施した。 | A | |
| | | 学部、大学院及び短期大学の教育課程の編成に関する方針及び教育の質の向上について検討するとともに、教育研究組織を定期的に点検・評価して、その結果を基に改善・向上に向けて取り組む。 | 180 | 順調 | 1 | 教育指導の実践・結果・評価の有機的な展開に向けて、FD・SD研修の評価事業を企画し、運営する。 | 今年度は全12回の研修会を開催予定であり、2月のオンラインデマンドSD研修、3月のFD研修を残し、これまでに10回が実施された。新任教職員対象、博士課程対象など、限定された研修もあったが、FD・SD研修は企画・運営できている。 | A | |

中期計画ば施策の進捗状況の判定

【想定を上回る】 【順調】 【概ね順調】 【取組みの強化】 【抜本的な改善】 【達成不能】

事業計画の目標の達成状況の判定

S : 目標を上回る A : 目標を達成 B : 概ね目標を達成 C : 部分的な目標達成 D : 全く目標を達成できず E : 達成不能

第4次中期計画及び2024年度事業計画の最終自己点検・評価の結果の一覧表

(日本赤十字秋田看護大学)

| 中期計画の施策 | | | | | 2024年度事業計画 | | | | |
|-----------------|---------------|---|-----------------|--------|------------|---|--|----|--|
| 学園 大目 標番 | 学園大目標 | 施策 | 施策一 連コー ド | 判定 | 事業コ ード | 事業内容 | 事業の実績 | 判定 | |
| ④ 教育課程・ 学習成果 | 教育課程・ 学習成果 | 理念・目的を実現するため、体系的・組織的な教育課程の編成を検討する。 | 225 | 概ね順調 | 1 | 本学の理念・目的を実現するため、体系的・組織的な教育課程の編成を検討する。 | 第1回、第2回教学マネジメント会議において、教育課程の適切性を検証している。 | A | |
| | | アセスメント・ポリシーに基づき、大学レベル、学部レベル及び科目レベルの3段階で学習成果を可視化し、教育課程の評価・改善を検討する。 | 230 | 概ね順調 | 1 | 教育課程を評価し、改善する。 | 第2回の教学マネジメントにおいて、大学レベル、学部レベル、科目レベルにおいての教育課程の適切性が検証された。 | A | |
| | | 医療現場のDXに対応した人材育成のための教育方法を検討する。 | 270 | 概ね順調 | 1 | ICTを活用した授業の実態とその効果を検証する。 | 【学部】ICTを活用した教育方法の方針案を策定した。また、学園共同でLMSの導入を検討してきたが、LMSは各大学個別のシステムとし、CMSの共同導入を決定したほか、電子テキスト導入、Medi-EYE（教育用電子カルテ）の導入を検討した。 | B | |
| | | 地域共生に対応する人材育成のために、多職種連携教育（Interprofessional Education；IPE）の導入を検討する。 | 350 | 順調 | 1 | IPEの実態とその効果を検証する。 | 【学部】IPEの動向について、IPEの概要、IPEの実際の検討を教務委員会内で共有した。 | A | |
| | | グローバルに活躍する人材育成をめざした教育課程の編成を検討する。 | 410 | 概ね順調 | 1 | 現行カリキュラムを評価し、グローバルに活躍できる人材育成を検討する。 | 【学部】2025年3月に文部科学省より「看護学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂案」が公表されたことから、2025年度から次期カリキュラムに向けての検討を開始することとした。 | B | |
| | | 地域共生に対応する人材育成のために、多職種連携教育（Interprofessional Education；IPE）の導入を検討する。 | 370 | 概ね順調 | 1 | 現行カリキュラムを評価し、赤十字科目等について検討する。 | 【学部】2025年3月に文部科学省より「看護学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂案」が公表されたことから、2025年度から次期カリキュラムに向けての検討を開始することとした。 | B | |
| | | 赤十字の特色を生かした教育課程の編成を検討する。（大学） | 380 | 抜本的な改善 | 1 | 現行カリキュラムを評価し、赤十字科目等について検討する。 | 【学部】赤十字の特色を生かした教育として「赤十字科目」を位置づけ、必修科目として4科目、選択科目として3科目を組み込んでいるが、近年、選択科目の履修登録者が減少傾向にある。 | D | |
| | | 赤十字マイスター（仮称）認証制度を創設する。 | 550 | 順調 | 1 | 赤十字関連科目的単位を全て取得し、赤十字教育委員会が定めた活動の参加状況を点数化し、一定の点数に達した学生を表彰する。 | 数値目標の25名には届かなかったが、11名の学生が認定された。学科ごとに学生数に対する認定割合でみると、介護福祉学科の方が圧倒的に多いので、看護学科の学生にも制度を浸透させるように務める。 | C | |

中期計画ば施策の進捗状況の判定

【想定を上回る】 【順調】 【概ね順調】 【取組みの強化】 【抜本的な改善】 【達成不能】

事業計画の目標の達成状況の判定

S : 目標を上回る A : 目標を達成 B : 概ね目標を達成 C : 部分的な目標達成 D : 全く目標を達成できず E : 達成不能

第4次中期計画及び2024年度事業計画の最終自己点検・評価の結果の一覧表

(日本赤十字秋田看護大学)

| 中期計画の施策 | | | | | 2024年度事業計画 | | | | |
|----------------|--|-----|-----------------|----|------------|--|--|----|--|
| 学園 大目 標番 | 学園大目標 | 施策 | 施策一 連コー ド | 判定 | 事業コ ード | 事業内容 | 事業の実績 | 判定 | |
| ④ 教育課程・学習成果 | 赤十字の理念の理解と実践を促進する学校行事を開催する。 | 530 | 順調 | | 1 | 国内外の人道危機等に関する講演会を実施する。 | ガザで医療救護活動をしていた大阪赤十字病院の看護師川瀬佐知子氏を講師に招き「イスラエル・ガザでの人道危機と赤十字の活動」と題した非常に時宜にかなった講演会を開催することができた。また、参加者も予想以上に多かった。 | S | |
| | | | | | 2 | 災害看護学等の科目と連携し、全学的に災害救護訓練を実施する。 | 災害救護訓練を予定通りに実施した。マスコミの取材にも応じた。 | A | |
| | | | | | 3 | 国際活動豊富な講師による講話を聴いたり、レイド・クロス等を用いて赤十字の基本原則に基づいた行動規範を学ぶ。 | 予定通りに実施した。 | S | |
| | | | | | 4 | 学生がイタリア・スイスを訪問し、赤十字に関連した史跡、ICRCやIFRCの本部をはじめとした国際機関等を視察する。 | 他大学の参加者がおらず、実施できなかった。 | D | |
| | | | | | 5 | オーストラリア又は北米で英語の語学研修を実施する。 | オーストラリア（ゴールドコースト）での研修を3月17日～26日に実施し、学生6名、引率教員1名が参加した。 | A | |
| | | | | | 6 | 夏と冬にキャンプを通して、防災・減災の知識とスキルを学ぶ。 | 夏と冬にキャンプを実施した。 | A | |
| | 学生の学習を活性化し、学修者本位の効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行う。 | 215 | 順調 | | 0 | 学生の学習を活性化し、学修者本位の効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行う。 | 【学部】令和6年度は、全科目数137科目中、アクティブラーニングの該当科目数は105科目76.6%を占めていた。「アクティブラーニングを用いた授業設計」のFD・SDの結果、ほとんどの教職員が理解を深め、今後に活かせると回答していた。また、自由記載では、授業参観の希望も述べられていた。授業評価（GPAの推移）、単位認定及び学位授与は、教務委員会及び教授会の審議を経て適切に行われた。 | A | |
| | | | | | 1 | 学生の学習を活性化し、学修者本位の効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行う。 | 【大学院】修士課程では、仕事をしながら学ぶ大学院生が個々の事情に応じて履修できるよう、年間登録単位数の上限を撤廃しているほか、研究計画書の提出時期を3期に分け、学生各自が選択できるようにしている。また、学習意欲の向上や自主的取組の推進のため、アクティブラーニングをはじめ、討議・演習・プレゼンなど、多様な授業方法を取り入れている。職業実践力育成プログラム（BP）では、4つの講座を開講し10名の学生を育成したほか、終了時アンケートでは、カリキュラムに対して「概ね満足」とする評価が86%を占めるなど、適切な学習機会の提供が行われた。 | A | |

中期計画ば施策の進捗状況の判定

【想定を上回る】 【順調】 【概ね順調】 【取組みの強化】 【抜本的な改善】 【達成不能】

事業計画の目標の達成状況の判定

S : 目標を上回る A : 目標を達成 B : 概ね目標を達成 C : 部分的な目標達成 D : 全く目標を達成できず E : 達成不能

第4次中期計画及び2024年度事業計画の最終自己点検・評価の結果の一覧表

(日本赤十字秋田看護大学)

| 中期計画の施策 | | | | | 2024年度事業計画 | | | | |
|-----------------|---|---|-----------------|--------|------------|--|---|----|--|
| 学園 大目 標番 | 学園大目標 | 施策 | 施策一 連コー ド | 判定 | 事業コ ード | 事業内容 | 事業の実績 | 判定 | |
| ④ 教育課程・ 学習成果 | 高度専門職業人及び教育・研究者等を養成する場として、履修証明プログラムによる単位修得の活用等を検討し、教育体制の充実を図る。また、病院等の施設訪問の際、本プログラムの紹介を行う。 | 高度専門職業人及び教育・研究者等を養成する場として、履修証明プログラムによる単位修得の活用等を検討し、教育体制の充実を図る。また、病院等の施設訪問の際、本プログラムの紹介を行う。 | 330 | 想定を上回る | 1 | 2023年度創設の履修証明プログラムをスマートに運用開始する。 | 【大学院】2025年度からホームページ上に掲載、2024年12月には冊子を作成し配布施設や分量は目標通り実施できている。当初計画より1年進んで事業完了となる。 | B | |
| | | 卒業認定・学位授与の方針に示した学生の学習成果を適切に把握し評価する。 | 235 | 概ね順調 | 0 | DPに示した学生の学習成果を適切に把握し評価する。 | 【学部】年2回の教學マネジメント会議において、教育課程の適切性を検証した。対象者すべての卒業認定がされた。令和6年度の卒業生から、ディプロマ・サプリメントを交付する。令和5年度卒業時満足度調査による、DP達成の自己評価ではほとんどの学生が達成できたという肯定的意見であった。 | A | |
| | | GPA制度を活用した学習成果の修得状況の把握と関連する影響要因を検討する。 | 240 | 順調 | 1 | GPA制度を活用した学習成果の修得状況と関連する影響要因を考察する。 | 【学部】令和7年度よりブログにGPAの影響要因を追加した。アドバイザーによる面談時に、f-GPAとDP達成度、PROGテスト結果等を活用している。 | B | |
| | | 学修者本位の教育の実現に向けて、授業評価アンケートや実習ポートフォリオから授業内容・方法の評価・改善を検討するとともに、ディプロマ・サプリメントの運用を開始する。 | 220 | 概ね順調 | 1 | 授業評価アンケート回収率向上に向けたアンケートシステム上の改善を図る。 | 【学部】令和5年度後期授業評価アンケート回収率は53.2%、令和6年度前期回収率は54.6%と、今年度目標の58%に到達できなかった。 | A | |
| | | 教育カリキュラムを定期的に点検・評価を行い、その結果を基に改善・向上に向けて取り組むことで、教育の質を担保する。 | 170 | | 1 | 教学マネジメント会議の検討を踏まえた「学習成果の可視化」に関する系統立てた研修を、引き続き行う。 | 【学部】令和6年度卒業生より、ディプロマ・サプリメントを発行する。また、運用については、秋田赤十字病院の看護部、その後、東北ブロックの赤十字病院の看護部へ周知する。 令和6年11月28日に研究科において「自己点検・評価に基づく研究科（修士課程）DP、CPの変更についてーシラバス作成に向けてー」、学部において、令和6年12月26日「PROGテストと各科目との関連の検討、次期カリキュラム改正に向けた評価」、の学習成果の可視化に関する研修を実施した。 | A | |
| | | 大学運営に関する重要事項について、「外部有識者会議」の委員から聴取した意見を関係部署へフィードバックし、課題を改善する仕組みを構築する。 | 950 | 順調 | 1 | 「外部有識者会議」において聴取した意見を、大学運営に反映する仕組み作りに着手する。 | 本学では令和3年度よりTPを勤務評価の「教育領域の評価」を作成するための資料として活用しており、本年度は内部質保証委員会より、勤務評価に添付し期末面談の際に活用する旨の周知を行った。令和7年度はTP作成の研修を予定している。 令和6年7月31日に外部有識者会議を開催した。 | B | |
| | | 大学運営に関する重要事項について、「外部有識者会議」の委員から聴取した意見を関係部署へフィードバックし、課題を改善する仕組みを構築する。 | 950 | 順調 | 1 | 「外部有識者会議」において聴取した意見を、大学運営に反映する仕組み作りに着手する。 | 令和6年7月31日に外部有識者会議を開催した。 | A | |

中期計画ば施策の進捗状況の判定

【想定を上回る】 【順調】 【概ね順調】 【取組みの強化】 【抜本的な改善】 【達成不能】

事業計画の目標の達成状況の判定

S : 目標を上回る A : 目標を達成 B : 概ね目標を達成 C : 部分的な目標達成 D : 全く目標を達成できず E : 達成不能

第4次中期計画及び2024年度事業計画の最終自己点検・評価の結果の一覧表

(日本赤十字秋田看護大学)

| 中期計画の施策 | | | | | 2024年度事業計画 | | | | |
|----------------|---------------|---|-----------------|------------|------------|---|---|----|--|
| 学園 大目 標番 | 学園大目標 | 施策 | 施策一 連コー ド | 判定 | 事業コ ード | 事業内容 | 事業の実績 | 判定 | |
| ④ | 教育課程・ 学習成果 | アクティブ・ラーニングを導入した教育方法の評価と発展を検討する。また、ICTを導入した教育方法を検討する。 | 300 | 順調 | 1 | FD・SDにおいて、アクティブラーニングの共通理解を深める。 | 【学部】全科目数137科目中、アクティブ・ラーニングの該当科目数は105科目76.6%を占めており、令和6年度の目標75%を上回った。 | A | |
| | | 東北エリアでの看護教育の拠点となるべく、遠隔授業システムやe-ラーニング教材の充実を図る。 | 430 | 概ね順 調 | 1 | 現行カリキュラムを評価し、遠隔授業システム及びe-ラーニング教材について検討する。 | 【学部】2025年3月に文部科学省より「看護学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂案」が公表されたことから、2025年度から次期カリキュラムに向けての検討を開始することとしている。 | B | |
| | | 文部科学省等の指針を受け、生成AIを利用した教材や教授法への活用に関する検討を行う。 | 450 | 想定を 上回る | 1 | それぞれの授業科目に遠隔授業を取り入れるよう働きかけを行う。 | 【大学院】2024年度遠隔授業可能科目は80%を超え目標は達成されているほか、オンデマンド授業の検討に取り掛かっている。 | S | |
| | | 学習課題と取組時間を授業ごとに提示し、事前事後学習の促進に繋げる。 | 440 | 取組み の強化 | 1 | 研究科と学部の教務委員会が連携し、生成AIの教育への活用に関する情報収集を行う。 | 学部教務委員長と研究科教務委員長で意見交換を行い情報システム委員会を中心としたチームの立ち上げが必要である点で合意が得られている。 | C | |
| | | 学習課題と取組時間を授業ごとに提示し、事前事後学習の促進に繋げる。 | 290 | 概ね順 調 | 1 | 教員にシラバス記載要領を説明し、それぞれのシラバスを確認する。 | 【学部】1単位30時間授業（自己学習45分以上必要）では92.6%（目標値95%以上）、1単位15時間授業（自己学習3時間以上必要）では20.8%（目標値25%以上）で推移している。 | B | |
| ⑤ | 学生の受け入れ | 理念・目的を実現するため、入学者受入れの方針を適切に公表する。 | 125 | 順調 | 0 | 本学の理念・目的を実現するため、APを適切に公表する。 | 本学公式サイト、学生募集要項、学校案内等において公表している。 | S | |
| | | アドミッション・オフィサー等を配置した効果等、入学者選抜体制の妥当性を評価し、経営会議に対して報告する。 | 130 | 順調 | 1 | IR分析による検証を行い、入学者選抜制度の妥当性を点検し、結果を教授会及び経営会議に報告する。 | 【学部】外部有識者会議においてIR分析による入学者選抜の妥当性について高等学校外部有識者と意見交換を行い、結果を経営会議に報告した。 | B | |
| | | 入学者選抜制度の妥当性を点検・検証し、次年度以降の制度の検討・変更に反映させる。 | 70 | 順調 | 1 | IR分析による検証を行い、入学者選抜制度の妥当性を点検し、結果を教授会及び経営会議に報告する。 | 【学部】外部有識者会議において高校関係者との意見交換を行った。IR分析については、次年度の経営会議に報告予定。 | S | |

中期計画ば施策の進捗状況の判定

【想定を上回る】 【順調】 【概ね順調】 【取組みの強化】 【抜本的な改善】 【達成不能】

事業計画の目標の達成状況の判定

S : 目標を上回る A : 目標を達成 B : 概ね目標を達成 C : 部分的な目標達成 D : 全く目標を達成できず E : 達成不能

第4次中期計画及び2024年度事業計画の最終自己点検・評価の結果の一覧表

(日本赤十字秋田看護大学)

| 中期計画の施策 | | | | | 2024年度事業計画 | | | | |
|----------------|---------|---|-----------------|--------|------------|--|---|----|--|
| 学園 大目 標番 | 学園大目標 | 施策 | 施策一 連コー ド | 判定 | 事業コ ード | 事業内容 | 事業の実績 | 判定 | |
| ⑤ | 学生の受け入れ | 入学定員に対して、入学者を適正に確保するとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理する。 | 132 | 順調 | 0 | 入学定員に対して入学者を適正に確保するとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理する。 | 【学部】入学定員100名に対し、106名の入学者を確保した。 | A | |
| | | 学園本部の広報戦略を踏まえ、本学の広報方針の策定を検討する。 | 970 | 抜本的な改善 | 1 | 広報戦略検討部会の検討内容を整理する。 | 学園本部の広報戦略検討部会が開催されなかったが、他の部会の情報を収集するなど現状分析と課題の整理に努めた。 | D | |
| | | オープンキャンパス開催、合同説明会への参加及び高校訪問等、学生募集のための広報活動を強化する。 | 40 | 順調 | 1 | オープンキャンパスを開催する。 | 【学部】第1回申込者118名、第2回申込者155名、第3回申込者115名、第4回申込者100名予定 | S | |
| | | | | | 2 | 県内外の高校ガイダンス等へ参加する。 | 【学部】高校ガイダンス参加 県内12回、県外1回 | S | |
| | | | | | 3 | 県内外への高校訪問を実施する。 | 【学部】青森県8校、岩手県5校、秋田県46校、山形県6校、宮城県14校、福島県5校 計84校 訪問 | S | |
| | | 高大連携協定校への取り組みを充実し、本学入学へ誘引する。 | 90 | 順調 | 1 | 現高大連携協定校との連携事業を実施する。 | 【学部】赤十字・国際人道教育フォーラム、SD研修会、外部有識者会議、「じょっぱり」上映会、出前授業、進路ガイダンス | S | |
| | | | | | 2 | 高大連携校を検討・決定する。 | 【学部】追加校選定は次年度に検討継続とする。 | B | |
| | | 県内高校出身学生の確保のための取り組み策を強化する。 | 100 | 順調 | 1 | 秋田県内の高校教諭を対象とした説明会を開催する。 | 【学部】7月に開催 | S | |

中期計画ば施策の進捗状況の判定

【想定を上回る】 【順調】 【概ね順調】 【取組みの強化】 【抜本的な改善】 【達成不能】

事業計画の目標の達成状況の判定

S : 目標を上回る A : 目標を達成 B : 概ね目標を達成 C : 部分的な目標達成 D : 全く目標を達成できず E : 達成不能

第4次中期計画及び2024年度事業計画の最終自己点検・評価の結果の一覧表

(日本赤十字秋田看護大学)

| 中期計画の施策 | | | | | 2024年度事業計画 | | | | |
|----------------|---------|---|-----------------|--------|------------|---|--|----|--|
| 学園 大目 標番 | 学園大目標 | 施策 | 施策一 連コー ド | 判定 | 事業コ ード | 事業内容 | 事業の実績 | 判定 | |
| ⑤ | 学生の受け入れ | 県内高校出身学生の確保のための取り組み策を強化する。 | 100 | 順調 | 2 | 秋田県内の中学校・高校の生徒を対象とした学校見学会を開催する。 | 【学部】高校4回、中学校6回実施 | S | |
| | | 個々の研究指導教員のネットワークの活用、病院等の施設訪問の強化等、多様なチャンネルによる大学院の学生確保の取り組み策を検討・実施する。 | 50 | 概ね順調 | 1 | 現職看護師に関し、研究指導教員等から情報を収集し、訪問先施設を精査し、より確実な大学院の学生確保に繋げる。 | 【大学院】施設訪問（zoom対応含む） 県外3施設、県内16施設 計19施設 | B | |
| | | | | | 2 | 学部生対象の大学院説明会の開催で、大学院進学の意識づけ及び大学院受験へ誘引をする。 | 【大学院】学部生対象説明会（7月）に6名が参加し、うち3名が4年生であった。この3名は助産学志望で第I期選抜に出願した。 | S | |
| ⑥ | 教員・教員組織 | 理念・目的を実現するため、「日本赤十字秋田看護大学・日本赤十字秋田短期大学がめざす教職員像」を教職員間で共有するとともに、教員配置計画を策定し、適正な教員の配置及び昇任等を行う。 | 1070 | 取組みの強化 | 1 | 教員及び事務職員の配置計画の策定作業を開始する。 | 教職員配置計画の基本となる給与勤務評価制度や基幹教員制度の導入について、学園本部で検討していることから、本部主催の総務委員会で本学の意見を反映させている。 | B | |
| | | 体系的・段階的・継続的なFD・SD研修会の企画・開催及び他機関が開催する研修会の情報提供や参加を奨励することにより、大学運営に必要な知見の獲得等、教職員の資質の向上を図る。 | 1060 | 概ね順調 | 1 | 組織的かつ多面的なFD及びSD活動の実施に向けて、教育の質保証に関する全学的なニーズを把握し、委員会組織を越えた自由度の高い研修会の共同での開催を推進する。 | 「教育の質に係る客観的指標」における今年度のFDとSDに係る設問の両方に於いて、配点の満点を獲得した。 | A | |
| | | | | | 2 | 全教職員それぞれが抱える問題点を踏まえ、年度ごとに体系的なFD・SDを実施する。 | 今年度実施予定の研修において、10回について他の委員会との共催での実施となる。大学院、学部、短大、事務局、図書館においても、各委員会、各課等の部局単位で、それぞれFD・SDの取り組みは行われている。 | A | |
| | | | | | 4 | SD研修会において、財務や運営、大学改革及び学生確保に向けた方策等、大学の経営的な視点から研修を実施し、持続可能性の観点から本学の教職員が目指すべき方向性を共有する。 | 全構成員を対象としたFD・SD研修会を1月10日に開催した。教職員基本研修の一環としてのSD研修会は2019（令和元）年度以来の開催となった。大学コンソーシアムあきた等の学外機関へも案内し、学外からも3名が参加した。 | A | |
| | | ティーチング・ポートフォリオ（TP）の作成による教育の質向上を目指し、様式の整理による教員の作成率の向上を図る。 | 210 | 取組みの強化 | 1 | TP作成要領見直しの検討会議を開催する。 | TP作成要領について、4月・5月・7月に検討会議を実施し、11月の教員研修での質問を踏まえながら継続的な議論を進めた。次年度は、公開に向けた作成要領の見直しを継続し、検討会議や教員研修を実施する予定である。 | S | |

中期計画ば施策の進捗状況の判定

【想定を上回る】 【順調】 【概ね順調】 【取組みの強化】 【抜本的な改善】 【達成不能】

事業計画の目標の達成状況の判定

S : 目標を上回る A : 目標を達成 B : 概ね目標を達成 C : 部分的な目標達成 D : 全く目標を達成できず E : 達成不能

第4次中期計画及び2024年度事業計画の最終自己点検・評価の結果の一覧表

(日本赤十字秋田看護大学)

| 中期計画の施策 | | | | | 2024年度事業計画 | | | | |
|----------------|---------|--|-----------------|--------|------------|---|---|----|--|
| 学園 大目 標番 | 学園大目標 | 施策 | 施策一 連コー ド | 判定 | 事業コ ード | 事業内容 | 事業の実績 | 判定 | |
| ⑥ | 教員・教員組織 | ティーチング・ポートフォリオ（TP）の作成による教育の質向上を目指し、様式の整理による教員の作成率の向上を図る。 | 210 | 取組みの強化 | 2 | TP作成・活用に関する研修を開催する。 | TP作成要領について、4月・5月・7月に検討会議を実施し、11月の教員研修での質問を踏まえながら継続的な議論を進めた。次年度は、公開に向けた作成要領の見直しを継続し、検討会議や教員研修を実施する予定である。 | S | |
| | | TPの作成を推進する。 | | | 3 | TPの作成を推進する。 | TP作成要領について、4月・5月・7月に検討会議を実施し、11月の教員研修での質問を踏まえながら継続的な議論を進めた。次年度は、公開に向けた作成要領の見直しを継続し、検討会議や教員研修を実施する予定である。 | S | |
| | | 大学院学生にティーチング・アシスタント（TA）として従事する活動を通じて、教授法や教員としての素質を伸ばす機会の充実を図る。 | 570 | 順調 | 1 | ティーチング・アシスタント制度に関する具体的検討をする。 | 【大学院】規程・ハンドブック等を作成し完成に至った。予算にも計上され予定通り実施に至る見込みである。 | A | |
| ⑦ | 学生支援 | 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行い、その結果を基に改善・向上に向けて取り組む。 | 925 | 順調 | 0 | 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行い、その結果を基に改善・向上に向けて取り組む。 | 令和7年度組織編制について、各委員会からの要望等を踏まえてより効率的な教育研究組織の確立のため、教学マネジメント会議の位置付けの変更など内部質保証体系を改善したほか、学生支援委員会のあり方を見直した。 | A | |
| | | 理念・目的を実現するため、学生支援に関する方針を明示し、修学支援、生活支援、進路支援等、学生支援を適切に行う。 | 575 | 概ね順調 | 0 | 本学の理念・目的を実現するため、学生支援に関する方針を明示し、修学支援、生活支援、進路支援等、学生支援を適切に行う。 | 【学部】学生の多様なニーズに応じて、修学、生活、進路の各分野において学生支援を行った。 | A | |
| | | 学修支援の一助として、大学独自の給付型奨学金制度等の導入について検討する。 | 640 | 概ね順調 | 1 | 学修支援の一助として、大学独自の給付型奨学金制度等の導入可否について検討を開始する。 | 現時点では大学の単独での制度の創設は困難である。 | B | |
| | | 学生の学修意欲向上を目的とした特待生制度の運用、評価を行う。 | 650 | 順調 | 1 | 教務委員会において、特待生制度の実態と効果を検証する。 | 【学部】特待生Bは、累積f-GPAではなく各学年ごとのf-GPAで対象者を選考することとした。 | A | |
| | | 学生の修学支援にあたっては、学生の多様性に配慮した、学習環境を整備する。 | 590 | 概ね順調 | 1 | 学習環境の整備計画策定のため、動向及びニーズ調査（サークル等へのインタビュー、他大学の取組の情報収集と個人情報の取扱いの取り決め等）。 | 【学部】動向及びニーズ調査はできていない。ただし、合理的配慮が必要な学生の支援については本学の基本方針ならびに手続きを策定した。 | C | |

中期計画ば施策の進捗状況の判定

【想定を上回る】 【順調】 【概ね順調】 【取組みの強化】 【抜本的な改善】 【達成不能】

事業計画の目標の達成状況の判定

S : 目標を上回る A : 目標を達成 B : 概ね目標を達成 C : 部分的な目標達成 D : 全く目標を達成できず E : 達成不能

第4次中期計画及び2024年度事業計画の最終自己点検・評価の結果の一覧表

(日本赤十字秋田看護大学)

| 中期計画の施策 | | | | | 2024年度事業計画 | | | | |
|----------------|-------|--|-----------------|------|------------|---|---|----|--|
| 学園 大目 標番 | 学園大目標 | 施策 | 施策一 連コー ド | 判定 | 事業コ ード | 事業内容 | 事業の実績 | 判定 | |
| ⑦ | 学生支援 | 学生の修学支援にあたっては、学生の多様性に配慮した、学習環境を整備する。 | 600 | 概ね順調 | 1 | 学習環境の整備計画策定のため、動向及びニーズ調査（サークル等へのインタビュー、他大学の取組の情報収集と個人情報の取扱いの取り決め等）。 | 【大学院】学習環境の整備計画については、大学院教務委員会が実施する学生アンケートにて必要なニーズ把握を実施した。合理的な配慮が必要な学生への本学の基本方針ならびに手続きを策定した。 | C | |
| | | | | | 2 | 学生生活支援のニーズの把握のため、アンケート調査を実施する。 | 【大学院】学生生活支援のニーズ把握のための委員会独自のアンケート調査には取り掛かれていない。年度内に教務委員会が実施したアンケート結果を共有し対応する。 | C | |
| | | 学生の能力に応じた学修支援体制の充実を図る。 | 460 | 順調 | 1 | 特別研究・課題研究に対する早期取り掛かりを勧め、能力に応じた時間をかけた支援が可能となるように働きかける。 | 【大学院】各授業科目の達成状況等に問し今年度は満足度が高いとは言えず、特に課題や授業・試験の実施日にに関する意見が聞かれた。これまでにない評価であること、学生全體の意見を反映できていないという課題はあるが、得た意見は生かしていくようフィードバックを行う。 | C | |
| | | 学習環境に係る全学的な整備状況の把握及び整備要望を基に、経営会議において必要な整備について協議する。 | 470 | 概ね順調 | 1 | 学習環境整備（施設・設備、学習・情報資源）と学生支援に関する検証と整備要望の取りまとめを行う。 | 本年度、第2回教学マネジメント会議において、学習環境整備（施設・設備、学習・情報資源）と学生支援に関する検証を実施した。 | A | |
| | | 学生個々の事情に配慮した支援を徹底する。 | 710 | 順調 | 1 | 大学院生からの進路相談に適切に対応し、希望に応じて、履歴書の添削や面接練習も行う。 | 【大学院】大学院生の希望進路内定率100% | A | |
| | | | | | 1 | 合同就職説明会に秋田県内の医療機関を招聘する。 | 【学部】9月に実施した合同就職説明会に県内の医療機関を14社を招聘した。 | A | |
| | | 策定した学生支援アドバイザーの業務ガイドラインを運用し、適切な学生相談対応を目指す。 | 580 | 概ね順調 | 1 | 学生支援の支援状況を把握し課題を抽出する。 | 【学部】年3回アドバイザーミーティングを開催し、学生支援状況を共有した。 | A | |
| | | | | | 2 | 他大学の学生支援に関する業務内容を調査する。本学における学生支援アドバイザー業務ガイドラインの試案を作成する。 | 【学部】新たなアドバイザーミーティングの試案を作成したが、他大学の学生支援の調査には着手できなかった。 | C | |

中期計画ば施策の進捗状況の判定

【想定を上回る】 【順調】 【概ね順調】 【取組みの強化】 【抜本的な改善】 【達成不能】

事業計画の目標の達成状況の判定

S : 目標を上回る A : 目標を達成 B : 概ね目標を達成 C : 部分的な目標達成 D : 全く目標を達成できず E : 達成不能

第4次中期計画及び2024年度事業計画の最終自己点検・評価の結果の一覧表

(日本赤十字秋田看護大学)

| 中期計画の施策 | | | | | 2024年度事業計画 | | | | |
|----------------|------------------|--|-----------------|------|------------|--|---|----|--|
| 学園 大目 標番 | 学園大目標 | 施策 | 施策一 連コー ド | 判定 | 事業コ ード | 事業内容 | 事業の実績 | 判定 | |
| ⑦ | 学生支援 | 日本赤十字社の支部や医療施設等の奨学金について、応募情報の把握と公開、募集に関する年間フローの作成による情報の一元化により、学生の奨学金応募への準備性を高める。 | 660 | 概ね順調 | 1 | 国や自治体、医療施設等の奨学金制度について情報収集する。 | 【学部】奨学金については、学生への奨学金の提供、必要な手続きの案内を随時行っている。 | C | |
| | | | | | | 進路ガイダンスとして、外部事業者によるキャリア支援のための講座を開催する。 | 【学部】進路ガイダンス年1回、キャリア支援講座8回開催した。 | B | |
| | | 低学年から計画的にキャリア教育や就職支援の機会を設け、社会情勢の変化に応じた幅広い進路選択ができるよう支援体制を維持する。 | 700 | 順調 | 2 | 合同就職説明会を開催する。 | 【学部】9月に合同就職説明会を実施した。(県内15社 県外13社) | A | |
| | | | | | | 社会情勢の変化に応じて、「進路の手引き」を改訂する。 | 【学部】進路の手引きを改訂し、3年生の進路ガイダンス(7月)にて公開した。 | A | |
| | | | | | | 合同就職説明会に赤十字関連施設を招聘する。 | 【学部】9月の合同就職説明会に14の赤十字病院を招聘した。 | S | |
| | 学生の就職志望の実現を支援する。 | 学友会等の自主的な学生の課外活動の充実を図る。 | 720 | 順調 | 1 | 学友会について、新旧役員間の円滑な引継ぎを行い、組織を改編するなどにより、年度早期に総会を開催し、事業実施に繋げる。 | 【学部】短大の学友会役員が決定した。1月に学友会と委員会の合同会議を開催した。 | A | |
| | | | | | | 学園祭や学生交流イベントを開催する。 | 【学部】学園祭、スポーツフェスティバル、ハロウィンイベントを開催した。学園祭は5年ぶりの開催となり、芸能人を招き集客の大きなイベントとなった。 | A | |
| | | | | | | 既存サークル活動を充実させ、新規サークル活動を支援する。 | 【学部】既存サークルの支援を実施した。年度末に各サークルから活動報告が提出された。 | A | |

中期計画ば施策の進捗状況の判定

【想定を上回る】 【順調】 【概ね順調】 【取組みの強化】 【抜本的な改善】 【達成不能】

事業計画の目標の達成状況の判定

S : 目標を上回る A : 目標を達成 B : 概ね目標を達成 C : 部分的な目標達成 D : 全く目標を達成できず E : 達成不能

第4次中期計画及び2024年度事業計画の最終自己点検・評価の結果の一覧表

(日本赤十字秋田看護大学)

| 中期計画の施策 | | | | | 2024年度事業計画 | | | | |
|----------------|-------------|---|-----------------|--------|------------|---|--|----|--|
| 学園 大目 標番 | 学園大目標 | 施策 | 施策一 連コー ド | 判定 | 事業コ ード | 事業内容 | 事業の実績 | 判定 | |
| ⑦ | 学生支援 | 養護教諭養成課程の卒業生主体のネットワークの形成を促進する。 | 340 | 概ね順調 | 1 | 養護教諭養成課程の卒業生主体のネットワークの形成を促進する。 | 【学部】本年度の達成目標は、養護教諭一種課程卒業生の会名簿作成に着手することであった。そのため、既卒1~3期生の卒業後連絡先の調査に加え、今年度卒業予定である4期生の卒業後連絡先調査を年度末までに実施する。調査にあたり、個人情報の保護に配慮しつつ、卒業生の連絡先、勤務先などの基本情報を収集し、組織の基盤となるデータベースを作成することとする。 | A | |
| | | 本学と同窓会の連携のあり方や活動内容等（卒業生のUターン支援を含む。）について検討する。 | 880 | 取組みの強化 | 1 | 入学案内書類に同窓会資料を同封するとともに、会員から同窓会費を徴収する。 | 【学部】入学案内書類に同窓会資料を同封するとともに、会員から同窓会費を徴収した。 | A | |
| | | | | | 2 | 同窓会と学部・学科が合同で連携会議を定期的に開催する。 | 【学部】同窓会と学部・学科が合同で連携会議を開催した。 | A | |
| | | 赤十字に関する情報発信やサークル活動の支援等、学生の赤十字の理念の理解と実践を促進する。 | 540 | 順調 | 1 | 地域の様々な災害等に対する学生ボランティア活動を行うために赤十字防災ボランティア・ステーションを運営する。 | 赤十字防災ボランティアステーションの登録数は、数値目標の約3倍になった。今年度は、秋田・山形豪雨災害が発生し、学生がにかほ市に加え、山形県の酒田市で泥出し・家財道具出し・稲刈り・茶話会などのボランティア活動を行った。 | A | |
| | | | | | 2 | 教職員が日本赤十字社の救急法救急員研修を受講する際の費用を補助する。 | 数値目標の1/10（1人）の達成率であった。 | C | |
| ⑧ | 教育研究等 環境 | 理念・目的を実現し、学生の学習及び教員による教育研究活動を十分に行うことができるよう、教育研究等環境の整備に関する方針を明示する。 | 1035 | 順調 | 0 | 理念・目的を実現し、学生の学習及び教員による教育研究活動を十分に行うことができるよう、教育研究等環境の整備に関する方針を明示する。 | 長期的施設整備計画を更新した。 | A | |
| | | 教育研究環境に関する整備計画を策定し、計画的に研究活動を促進する環境を整備する。 | 520 | 順調 | 1 | 教育研究環境に関する整備計画を策定する。 | 固定資産の実査を行い、更新及び除却は適切に行われている。 | A | |
| | | | 480 | 概ね順調 | 1 | 外部資金獲得支援に係る研修会（動画講座、オンライン研修）を開催するとともに、科研費申請レビューを支援する。 | 昨年度から研修方式を対面+オンラインに切り替えFSD委員会との共催で実施した。参加者は教員55名（対面+オンライン各47%）、オンラインのみ49%、職員21名（対面+オンライン各33%、オンラインのみ67%）。研修内容は「基礎知識」「実践的応用」「研究設計」「研究計画書の作成」「研究論文の執筆」「研究費申請書の作成」など総合的な知識を学ぶ内容で、研修の理解度は「理解でき」、「まあ理解でき」併せて教員100%、職員95%であり、わかりやすい研修内容であったと考える。一方で、科研費申請レビューについては上限9名として利用者を募り、今年度は申請者数が9名を超えたため、審査する者を増やすこととした。申請者数は9名であり、申請内容に満足している。オンライン講座をオンラインに設立した。75%のレビューアーに満足しているが修正時間が取れなかつた」25%となっている。令和7年3月時点での科研申請者は7名（レビュー利用有5名、利用無2名）、科研以外の外部資金申請者は2名である。 | S | |

中期計画ば施策の進捗状況の判定

【想定を上回る】 【順調】 【概ね順調】 【取組みの強化】 【抜本的な改善】 【達成不能】

事業計画の目標の達成状況の判定

S : 目標を上回る A : 目標を達成 B : 概ね目標を達成 C : 部分的な目標達成 D : 全くを目標を達成できず E : 達成不能

第4次中期計画及び2024年度事業計画の最終自己点検・評価の結果の一覧表

(日本赤十字秋田看護大学)

| 中期計画の施策 | | | | | 2024年度事業計画 | | | | |
|----------------|---|--|-----------------|------|---|---|--|----|--|
| 学園 大目 標番 | 学園大目標 | 施策 | 施策一 連コー ド | 判定 | 事業コ ード | 事業内容 | 事業の実績 | 判定 | |
| ⑧ | 教育研究等 環境 | 教育研究環境に関する整備計画を策定し、計画的に研究活動を促進する環境を整備する。 | 480 | 概ね順調 | 2 | 教員に研究助成の公募について周知とともに、研究助成応募へのインセンティブについて検討する。 | 令和7年度3月時点での研究助成応募（採択不問）件数は9件（科研費7件、その他2件）に留まり、目標値15件には至らなかった。令和7年2月時点で科研費、その他外部資金いずれも獲得していない教員は看護学部25名（59.5%）、介護福祉学科10名（100%）である。 | C | |
| | | | | | 3 | よろずカフェを開催する。 | 教員の研究紹介、ブラックレコードの2部構成とし、令和7年2月時点で8回、1月と2回実施した。参加者は各回10～13名程度である。事務職員も各回2～3名の参加があり、教職員との交流の機会となっている。アンケート結果では「他の教員の話が聞けるのは貴重な機会」、「研究チームの構築について意見交換したい」「教職員の新たな一面が知れて親しみが深まる」といった肯定的な意見が挙がっていた。具体的な参加者の満足度（%）については、今後確認する予定。 | A | |
| | | | | | 4 | 紀要の発刊、投稿数の増加に向けたニーズ調査を行う。 | 投稿規程を改正したうえで投稿募集をしたが、令和6年度紀要では実践報告1、講演記録1の内容で発行に向け作業を進めている。昨年度に比して投稿数の増加には至らなかった。 | C | |
| | 危機管理基本マニュアル等の更新・見直しを行うとともに、緊急連絡網（メールシステムを含む。）伝達訓練と避難訓練を実施し、災害等に対する危機意識の向上を図る。 | 1010 | 順調 | 1 | 防災訓練や安否確認訓練を行う。 | 8月、12月、3月に安否確認テストを実施した。期限内の学生の回答率は、43.6%、39.9%、64.0%であった。3回目には安否が確認できるまでテストを繰り返し、全員の確認ができるまで6日を要した。また、同時に実施した防災意識調査では85%の学生が日頃から意識しているとの回答があった（目標値80%）。このほか10月には、学生及び教職員約100名が参加し、消防訓練を実施した。 | A | | |
| | | | | 2 | 各種管理マニュアルを点検し、必要な改正を行う。 | 年度当初に「自殺予防・初期対応マニュアル」と「学校感染症対策マニュアル」を改正し、運用した。運用中、曖昧な点については明確化した。 | A | | |
| | 学習環境に係る全学的な整備状況の把握及び整備要望を基に、経営会議において必要な整備について協議する。 | 470 | 概ね順調 | 1 | 学習環境整備（施設・設備、学習・情報資源）と学生支援に関する検証と整備要望の取りまとめを行う。 | 本年度、第2回教学マネジメント会議において、学習環境整備（施設・設備、学習・情報資源）と学生支援に関する検証を実施した。 | A | | |
| | 図書館、学術情報サービスを提供するための体制を整備し、教育研究活動の促進を図る。 | 465 | 順調 | 0 | 図書館、学術情報サービスを提供するための体制を整備し、教育研究活動の促進を図る。 | 本学紀要是JAIRCloudを通じたリポジトリで外部公開している。利用頻度が高い「医中誌Web」については学外からも利用できるようリモートオフショアを追加契約した。「CINahl」については次年度から最高位モデルの「Ultimate」に変更する予定である。学部生及び短大生の貸出冊数を3冊から5冊に変更し、院生と教員の一般図書の貸出期間を15日から22日に変更した。 | A | | |
| | 時代の変化に即し、関係法令や倫理指針等を遵守した研究を適切に推進する。 | 990 | 概ね順調 | 1 | 著作権利用に関する研修会を開催する。 | オープンリソース利用促進に関しては、プラットフォームとなるNEOの契約更新後、外部資金獲得に向けた研修の事前学習等で活用した。本学教員が独自にオープンリソースを作成し、講義等に活用している事例は看護学部1例（赤十字原論）である。教育研究開発委員会のワーキングメンバーにより、オープンリソース利用促進に向けた次年度研修会の企画書を作成した。研修対象は全教職員とし、実施時期は令和7年度中に実施する予定とした。研修内容は、様々な媒体や文献を用いながらオープンリソースを作成し、公開するにあたり、情報倫理、著作権等の知識が獲得できる内容を予定している。 | C | | |

中期計画ば施策の進捗状況の判定

【想定を上回る】 【順調】 【概ね順調】 【取組みの強化】 【抜本的な改善】 【達成不能】

事業計画の目標の達成状況の判定

S : 目標を上回る A : 目標を達成 B : 概ね目標を達成 C : 部分的な目標達成 D : 全く目標を達成できず E : 達成不能

第4次中期計画及び2024年度事業計画の最終自己点検・評価の結果の一覧表

(日本赤十字秋田看護大学)

| 中期計画の施策 | | | | | 2024年度事業計画 | | | | |
|------------------|--|------|-----------------|--|---|--|-------|----|--|
| 学園 大目 標番 | 学園大目標 | 施策 | 施策一 連コー ド | 判定 | 事業コ ード | 事業内容 | 事業の実績 | 判定 | |
| ⑧ 教育研究等 環境 | 時代の変化に即し、関係法令や倫理指針等を遵守した研究を適切に推進する。 | 990 | 概ね順調 | 2 | 研究不正防止に関する研修会を開催する。 | 外部資金獲得に向けた研修会を組み合わせ、7月にFDSD委員会共催で実施したところ、対面・オンラインを併せた受講率は100%であった。研修の理解度は「理解できた」「まあまあ理解できた」併せて教員100%、職員95%であり、わかりやすい研修内容であったと考える。 | A | | |
| | | | | 3 | 研究倫理教育を行う。 | 中間点検・評価時の受講率は18.5%であったが、12月末までの研修期間内に教職員、大学院生ともに全員受講した。また、受講後のアンケートの回答率は64.2%、(81名中52名)であり、研修会満足度について「非常に満足」が50.0%、「よく分かった」が39.0%と回答している。APRNのセミナーを例に研修会について「非常に満足」と回答した割合は95%と回答を得た調査等。最新のデータを用いて学べてよかった、「今度もテストを受けて理解が深まつた」「自分の空き時間を使って受けられた」と評価していた。また、「インターネット上のデータを活用するうえでの研究倫理に関する考え方を学びたい」等の意見もあり、次年度の研修会企画に反映していくたい。 | S | | |
| | 研究費の不正使用や研究不正を防止する。 | 1000 | 概ね順調 | 1 | 個人研究費等の執行手続きの見直しを実施する。 | 令和6年度は、マニュアルの見直しは行っていないが、手土産やポイント利用についての考え方の整理を行った。 | B | | |
| | 本学独自のDX推進計画を策定し、情報セキュリティに関する意識の向上を図る。 | 500 | 概ね順調 | 1 | 学内各種提供サービスの実態を把握する。 | 学内の情報システムの状況を把握し、大学名変更に伴う、システム変更及びサービスのクラウド化を実施した。3月以降は新ドメインに対応したシステムが稼働、試験期間を経て4月本格稼働、その後に全体の状況把握へと進む予定である。 | B | | |
| | 安全安心な情報システムの利用のためのマニュアルを作成し、情報セキュリティに関する意識の向上に努めながら、事務の効率化など、不斷の業務の改善を進める。 | 490 | 取組みの強化 | 1 | 新たにインシデント個別対応マニュアル作成にあたり、本学の既存のCSIRTとの整合性を整理する。 | ドメイン変更に伴うシステムの変更が発生した。そのため現在、CSIRTのマニュアルたたき台作成が完了した段階で停止している。 | C | | |
| | | | | 2 | 現在、学内で運用しているシステムの状態を把握する。 | 大学名変更に伴うドメイン変更および関連するシステム変更に伴う契約は締結した。現在はシステムの構築段階となっており、3月より新たなシステム構成での稼働が予定されている。4月以降に学内システムが本格稼働する。その後、新システムの完成をもって全学のシステム状況の整理に努める予定である。 | C | | |
| | 経営会議は、教育研究等環境の適切性について定期的に点検・評価を行うとともに、その結果を基に改善・向上に向けて取り組み、関係委員会に指示する。 | 1020 | 順調 | 1 | 教職員向け情報セキュリティ研修会を開催する。 | 2月に情報セキュリティに関するコンプライアンス研修会を実施した。 | A | | |
| | 1038 | 順調 | 0 | 教育研究等環境の適切性について定期的に点検・評価を行うとともに、その結果を基に改善・向上に向けて取り組み、関係委員会に指示する。 | 令和6年度自己点検・評価結果の中間評価結果を踏まえて、学長より令和7年度の事業や予算等に必要な指示を行ったほか、同最終評価結果を踏まえて、施策の達成に向けて、必要な指示を行うこととしている。 | A | | | |

中期計画ば施策の進捗状況の判定

【想定を上回る】 【順調】 【概ね順調】 【取組みの強化】 【抜本的な改善】 【達成不能】

事業計画の目標の達成状況の判定

S : 目標を上回る A : 目標を達成 B : 概ね目標を達成 C : 部分的な目標達成 D : 全く目標を達成できず E : 達成不能

第4次中期計画及び2024年度事業計画の最終自己点検・評価の結果の一覧表

(日本赤十字秋田看護大学)

| 中期計画の施策 | | | | | 2024年度事業計画 | | | | |
|----------------|---------------|--|-------------|----------|------------|--|---|----|--|
| 学園 大目 標番 | 学園大目標 | 施策 | 施策一連コー ド | 判定 | 事業コ ード | 事業内容 | 事業の実績 | 判定 | |
| ⑨ | 社会連携・ 社会貢献 | 理念・目的を実現するため、社会連携・社会貢献に関する方針を明示する。 | 805 | 順調 | 0 | 本学の理念・目的を実現するため、社会連携・社会貢献に関する方針を策定・明示する。 | 基本方針に従い、公開講座の開催などの事業を実施した。 | A | |
| | | 「大学コンソーシアムあきた」の事業活動に積極的に参加する（単位互換授業の提供科目の拡大）とともに、受講状況及び受講者アンケート結果を学内に周知し、事業に対する全学的な意識の向上を図る。 | 910 | 達成不 能 | 0 | 「大学コンソーシアムあきた」の事業活動に積極的に参加する（単位互換授業の提供科目の拡大）とともに、受講状況及び受講者アンケート結果を学内に周知し、事業に対する全学的な意識の向上を図る。 | 【学部】未実施にて評価せず。 | E | |
| | | 大学コンソーシアムあきた」の事業活動に積極的に参加する（単位互換授業の提供科目の拡大）とともに、受講状況及び受講者アンケート結果を学内に周知し、事業に対する全学的な意識の向上を図る。 | 910 | 順調 | 1 | 高等教育セミナーを実施する。 | 令和6年度の高等教育セミナーは令和7年1月9日に開催された。 | A | |
| | | | | | | 高大連携協定締結校等に対する授業を行う。 | 2024年度は、大学2講座全6講を開催し、受講申込者95名中、皆勤出席者53名であった。また、短大においては2講座全4講を開催し、受講申込者26名中、皆勤出席者21名であった。 | B | |
| | | 地域課題の解決に向けた研究を推進する体制を整備する。 | 560 | 順調 | 1 | 秋田赤十字病院研究班への指導・助言（5～12月）を行うとともに、研究支援に関する病院側のニーズを調査する。 | 秋田赤十字病院の研究班が行う研究期間が昨年度から1年間一複数年度に変更された。病院につき複数の研究班が活動し、令和6年度は22研究班に対し、12名の本学教員（うち委員4名）が対応した。今年度末には9研究班が令和7年1月、2月に院内発表を行い、支援教員との共同で学会発表に至る研究班もあった。教員および研究班に対して、アンケート調査を実施し、令和7年3月にまとめる予定である。 | A | |
| | | | | | | 地域課題に研究に関するニーズ調査を行う（研究手法に関する勉強会・プロジェクト編成・研究スキル等）。 | 勉強会「なぜ世界界のオーラ二つづき」を3回シリーズとし、外部講師を招いて実施した。外部講師が本学研究倫理審査委員会を兼任していることから、9月～11月開催（令和3年10月13・30～14・30）で実施した。全教員、大学院生を対象としたもので、内閣官房の調査報告文を用いたスライド資料を用いて開催され、参加者は100名以上であった。「満足度」併せて67%であり、「少しレベルが高かった」「初学者向けの統計解析手法が知りたい」「正確性の検定について知りたい」という意見が多かった。そこで第2弾として、対象となる者のレベルを下げるため、本学の研究倫理審査委員会のための研修（統計に関する書籍の紹介、図書館での図書検索の仕方）を企画し、令和7年2月21日に実施した。 | B | |
| | | 医療・福祉や災害関連のテーマで、一般市民を対象とした公開講座を実施する。 | 790 | 順調 | 1 | 地域医療や防災等に関する公開講座を開催する。 | 2025年1月25日現在、災害関連4講座およびウィルスについての講座の計5講座が終了しており、参加者の延べ人数は61名であった。数値目標の60名を達成している。参加者からのアンケートは、「有意義であった」が93～100%の回答を得ている。 | A | |
| | | 社会における様々なニーズを把握し、自治体や民間団体と連携し、本学の教育、研究成果を還元する活動のあり方を検討していく。 | 800 | 概ね順 調 | 1 | 地域課題に関し、ニーズ把握や学外団体との連携を図る。 | 過去年に開催された市民公開講座のアンケート回答から、地域課題におけるニーズを抽出した。年度内において学外団体との連携について、検討を進めている。 | B | |

中期計画ば施策の進捗状況の判定

【想定を上回る】 【順調】 【概ね順調】 【取組みの強化】 【抜本的な改善】 【達成不能】

事業計画の目標の達成状況の判定

S : 目標を上回る A : 目標を達成 B : 概ね目標を達成 C : 部分的な目標達成 D : 全く目標を達成できず E : 達成不能

第4次中期計画及び2024年度事業計画の最終自己点検・評価の結果の一覧表

(日本赤十字秋田看護大学)

| 中期計画の施策 | | | | | 2024年度事業計画 | | | | |
|----------------|---------------|--|-----------------|--------|------------|---|---|----|--|
| 学園 大目 標番 | 学園大目標 | 施策 | 施策一 連コー ド | 判定 | 事業コ ード | 事業内容 | 事業の実績 | 判定 | |
| ⑨ | 社会連携・ 社会貢献 | 日本赤十字社秋田県支部をはじめとする赤十字関係団体及び自治体や民間団体と連携した社会貢献活動を展開する。 | 820 | 順調 | 1 | 秋田県内の赤十字施設と協力して、子どもたちが各施設の職業を体験する。 | 秋田県内の赤十字施設と連携して実施できた。多くの学生が、ボランティアとして参加した。来場者も多かった。 | A | |
| | | | | | 2 | 秋田県内の企業・自治体等と連携し、防災に関するフェス実施の準備をする。 | コロナ禍で中断されていたが、久しぶりの開催となった。今回からは秋田魁新報社が主催し、大学は協力の形をとった。二日間の開催予定であったが、雨のため一日のみの開催となった。 | A | |
| | | 学内で地域課題についての関連情報を共有し、行政機関等と連携しながら、大学としての取り組みを推進する。 | 810 | 順調 | 1 | 行政機関等との連携事業（受託事業、共同研究等）を行う。 | 秋田県とは防災リーダー養成事業、秋田県社会福祉事業団とは災害避難訓練、明治安田生命秋田支店とはイベントの協賛・共同など目標を上回る連携事業を実施した。（目標値年間5件） | S | |
| | | 学内施設やグラウンド等を積極的に開放する等、地域との連携を強化する。 | 830 | 想定を上回る | 1 | 要望に応じて、学内施設やグラウンド等を積極的に開放し、地域との連携強化に努める。 | (2/27現在) 施設使用願許可件数は101件となっており、年間目標（100件）を達成できている。 | S | |
| | | 教員の専門分野における知見を生かし、行政機関や各種団体の委員会等に積極的に派遣する。 | 840 | 想定を上回る | 1 | 専門分野の知見を活かし、自治体や各種団体等の外部委員や講師として積極的に教員等を派遣する。 | (最終評価：令和7年2月27日現在) の派遣人数は26名(実人数)/105名(延人数)となっており、(中間評価：令和6年9月20日現在) から実人数はほぼ変わらないが、延人数が79名から順調に推移し、数値目標を大きく上回る結果となった。 | S | |
| | | 行政機関、各種団体及び企業と連携を積極的に進め、連携協定を締結する。 | 850 | 順調 | 1 | 行政機関、各種団体及び企業との連携を積極的に進め、連携協定を締結する。 | 今年度は新規協定を以下の3件締結し、数値目標を達成することができた。4/11「高清水園との」「大雨による洪水被害発生における臨時の避難場所の提供等に関する協定」7/8「秋田県との包括連携協定」11/13「明治安田生命保険相互会社との包括パートナーシップ協定」 | A | |
| | | 教育現場からの出前授業等の要請に対し、教員を派遣する。 | 860 | 想定を上回る | 1 | 県内の中学校・高校へ出前授業の案内を通知する。 | 公式サイトにて公表 | A | |
| | | 教育現場からの出前授業等の要請に対し教員を派遣する。 | 860 | 想定を上回る | 1 | 広報戦略検討部会の検討内容を整理する。 | 出前授業 看護学部 県内6回、県外5回 介護福祉学科 県内5回 | C | |

中期計画ば施策の進捗状況の判定

【想定を上回る】 【順調】 【概ね順調】 【取組みの強化】 【抜本的な改善】 【達成不能】

事業計画の目標の達成状況の判定

S : 目標を上回る A : 目標を達成 B : 概ね目標を達成 C : 部分的な目標達成 D : 全く目標を達成できず E : 達成不能

第4次中期計画及び2024年度事業計画の最終自己点検・評価の結果の一覧表

(日本赤十字秋田看護大学)

| 中期計画の施策 | | | | | 2024年度事業計画 | | | | |
|----------------|-----------|--|-----------------|--------|------------|--|--|----|--|
| 学園 大目 標番 | 学園大目標 | 施策 | 施策一 連コー ド | 判定 | 事業コ ード | 事業内容 | 事業の実績 | 判定 | |
| ⑨ | 社会連携・社会貢献 | 現職看護師のスキルアップ等のリカレント教育の導入を検討する。 | 390 | 概ね順調 | 1 | 現行カリキュラムを評価し、リカレント教育プログラムを検討する。 | 【学部】2025年3月に文部科学省より「看護学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂案」が公表された。 | B | |
| ⑩ | 大学運営・財務 | 理念・目的を実現し、大学の機能を円滑かつ十分に発揮するため、大学の運営に関わる方針を明確にする。 | 915 | 順調 | 0 | 理念・目的を実現し、大学の機能を円滑かつ十分に発揮するため、大学の運営に関わる方針を明確にする。 | 中期計画や年度別の事業計画ほか自己点検・評価結果を全教職員会議を通して周知している。各事業等に数値目標をしたことで進捗状況の把握が容易となり、目標達成に向けての指示が的確にできるようになった。 | A | |
| | | 私立大学等改革総合支援事業の調査票の自己採点結果を踏まえ、教育や入試等の改革を推進する。 | 940 | 順調 | 1 | 私立大学等改革総合支援事業の各項目について、自己採点を踏まえ、対応方針を決定し、関係する委員会等に指示する。 | 関係委員会の自己採点結果を踏まえて、学長政策室及び経営会議で採点結果を確定し、各委員会の今後の取組方向について学長からの指示を行った。 | A | |
| | | 将来の秋田キャンパスのあり方に関する検討結果を踏まえ、大学の名称を変更する。 | 1120 | 順調 | 1 | 大学の名称変更に伴い、プロジェクト計画を策定し、関係機関及び社会への周知及び関係事業等を実施する。 | 名称変更を記載した名刺等を活用し、全教職員がPRに努めたほか、各種案内板、学内看板などの改修を行った。 | A | |
| | | 各委員会が所掌している「付随事業」の見直しを行う。 | 1050 | 概ね順調 | 1 | 「付隨事業」の見直しを実施する。 | 各委員会等から要望された令和7年度予算について、新規事業として申請があったものについては、「学長特別助成」の予算枠の対象とし、具体的な事業内容が決定して個別に助成申請することとした。收支予算の積算状況としては、大学は收支均衡が図れているが、短期大学が経常的に赤字となっている。 | C | |
| | | 寄付金収入の増加に向けた取り組みを強化する。 | 900 | 抜本的な改善 | 1 | 寄付を受け付ける。 | 寄付目標額500万円に対して、65万円の寄付収入があった。なお、今後の取組強化に向けて、秋田市とSCK(株)による教育機関応援型ふるさと納税制度の導入に向けた取組をスタートさせた。 | C | |
| | | ハローワークや秋田県、秋田県介護福祉士会等との連携により、受託事業の拡充による財源の多様化を図る。 | 1030 | 抜本的な改善 | 1 | 受託事業を受け入れる。 | 防災リーダー養成研修会は、昨年度より継続されているが年間1,500千円の収入にとどまっている。ハローワーク経由の入学生も現在2名と少人数であり、受託事業収入の増加には至っていない。 | D | |
| | | 法令及び自律的なガバナンス・コードを基本としてガバナンスの実効性を高め、情報公開等により大学運営の透明性を高める取り組みを推進する。 | 920 | 順調 | 1 | ガバナンス・コードの適合状況を点検し、結果を公表する。 | 学園本部関係の適合状況の点検を踏まえて、令和7年3月の経営会議で点検を行い、その結果を公表した。 | A | |

中期計画ば施策の進捗状況の判定

【想定を上回る】 【順調】 【概ね順調】 【取組みの強化】 【抜本的な改善】 【達成不能】

事業計画の目標の達成状況の判定

S : 目標を上回る A : 目標を達成 B : 概ね目標を達成 C : 部分的な目標達成 D : 全く目標を達成できず E : 達成不能

第4次中期計画及び2024年度事業計画の最終自己点検・評価の結果の一覧表

(日本赤十字秋田看護大学)

| 中期計画の施策 | | | | | 2024年度事業計画 | | | | |
|------------------|--|------|-----------------|----|---|---|-------|----|--|
| 学園 大目 標番 | 学園大目標 | 施策 | 施策一 連コー ド | 判定 | 事業コ ード | 事業内容 | 事業の実績 | 判定 | |
| ⑩ 大学運営・ 財務 | 日本赤十字社秋田県支部や病院等との人事交流の実施や日本赤十字社及び学園本部主催の職員研修に職員を派遣する。 教育研究活動を支援しそれを維持・向上させるため、定期的な組織体制の見直しを実施し、適切な支援組織を整備する。 学長の方針、中・長期の計画や経営情報について、ホームページ等で学生への周知を図るとともに、教職員に対しては全教職員会議において経営状況等の報告を行い、経営意識の醸成、共有化を図る。 学内におけるハラスメント防止対策や教職員の健康管理を推進する。 | 1080 | 想定を上回る | 1 | 日本赤十字社秋田県支部との人事交流を実施するとともに、日本赤十字社及び日本赤十字学園主催の研修に教職員を派遣する。 | 今年度4月から人事交流として秋田赤十字病院へ職員1名を派出させている。各種研修についての派遣状況は次のとおりであり、目標数値を大きく上回ることとなった。(4月: 対面) 本社主催 新任職員研修参加者 1名 (9~11月: オンデマンド方式) 学園本部主催の研修会参加者 8名 (10/15, 16予定: 対面) 北東北3県合同中堅職員研修会 5名 (12/11, 12) 令和6年度採用職員 1年目フォローアップ研修 1名 | | S | |
| | | 930 | 順調 | 1 | 大学・短大の組織体制を見直す。 | 事務の効率化を図るために、大学及び短期大学の名称変更に伴い、短期大学の「事務部」を「事務局」に変更することとした。併せて、大学の学生支援委員会と短期大学の学生支援委員会を合同で開催できることとし、共通する事項の審議の簡素化を図った。 | | A | |
| | | 960 | 順調 | 1 | 全教職員会議において本学の経営状況の報告を行い、教職員の経営意識の醸成、共有化を図る。 | 全教職員会議を年2回(4/1と1/9)開催し、事務局長より本学の経営状況や事業計画等について、教職員へ説明し、経営意識の醸成と共有化を図ることが出来ている。 | | A | |
| | | 980 | 順調 | 1 | ハラスメント防止対策に関する意識の啓発・向上を図るため、全教職員対象の研修会を開催する。 | 4月の入学時ガイダンスにおいて、新入生全員およびアドバイザーに対して、ハラスメント防止対策に関する講義を行い、内容を周知した。8月に全教職員を対象としたハラスメント防止対策研修会を開催した。参加率は90.8%であり達成できた。(目標値90%以上) | | A | |
| | | 1090 | 概ね順 調 | 1 | 事務職員の時間外労働の削減に努める。 | 令和6年4月～令和7年1月の月平均時間外労働は4.11時間。昨年度の同期間の平均4.17時間と比較して、僅かながら削減されている。 | | S | |
| | | | | 2 | 教職員の年次有給休暇取得日数の向上に努める。 | 2/27現在の有給休暇取得率が47.2%。暫定の数値であるが、昨年度の取得率(55.1%)を下回ることが見込まれ、さらには数値目標の達成が困難な状況にある。 | | A | |
| | 働きやすい職場環境づくりを進めながら、SDGsの実現を目指す。 | 1040 | 順調 | 1 | 施設・大型設備にかかる整備計画を策定する。 | これまでの修繕履歴を集約し、過去の履歴と耐用年数を考慮しながら、おおよその修繕計画の方向性を出した。 | | A | |
| | 施設・大型設備にかかる整備計画を策定し、毎年度計画を点検しながら、計画的に維持修繕や更新を実施する。 | 1100 | 順調 | 1 | 省エネルギー・再生可能エネルギーに配慮した設備更新を行う。 | 令和6年度の本学のエネルギー使用量は原油換算で256Lで、数値目標の249L以下は達成できていないが、省エネ効率の高い設備に更新可能なものなどを検討し、令和7年度には、学内でLED化されていない照明の更新と駐車場外灯のLED化を予算措置した。 | | B | |

中期計画ば施策の進捗状況の判定

【想定を上回る】 【順調】 【概ね順調】 【取組みの強化】 【抜本的な改善】 【達成不能】

事業計画の目標の達成状況の判定

S : 目標を上回る A : 目標を達成 B : 概ね目標を達成 C : 部分的な目標達成 D : 全く目標を達成できず E : 達成不能